

まえがき	i
------	---

I 部 コミュニティワークの基礎理論

1 章	コミュニティワークの定義と歴史を把握する	3
1 節	地域福祉が要請される時代的な背景	4
2 節	地域福祉とコミュニティワークの整合	7
3 節	日本でのコミュニティ・オーガニゼーションの歴史	12
2 章	コミュニティワークの古典的な理論を理解する	15
1 節	道具的理論としてのコミュニティワーク	16
2 節	コミュニティ・オーガニゼーションの古典的な理論	17
3 章	現代的な理論を理解する I —— 方法モデルの構想	25
1 節	コミュニティ・オーガニゼーションの方法モデル	26
2 節	実践におけるアプローチの混合	29
3 節	方法モデルの発展	34
4 章	現代的な理論を理解する II —— コミュニティケアの実践と方法	39
1 節	イギリスにおけるコミュニティケアの実践	40
2 節	日本でのコミュニティ・ソーシャルワークの重視	46
5 章	コミュニティワークの展開過程を知る	51
1 節	問題の把握	52
2 節	計画の策定	53
3 節	計画の実施	57
4 節	記録と評価	59
	補論 I : ソーシャルワーク・アドボカシー	63

Ⅱ部 コミュニティワークの実践理論

6章 問題を発見してコミュニティを対象化する	69
1節 問題の発見と市町村合併の影響	70
2節 コミュニティの対象化	75
3節 オルタナティブなアウトリーチの必要性	78
7章 問題を構造化し、その解決を予測する	83
1節 問題の発見の技法とコミュニティワーカーの役割	84
2節 問題を構造化する三つの要件	89
3節 困難課題の構造化とコミュニティワーカーの資質	92
8章 計画策定に必要な戦略を立案する	97
1節 課題の抽出とニーズ把握の戦略	98
2節 困難課題に対する解決の戦略	101
9章 地域福祉計画を策定するⅠ — 上位レベルの計画	109
1節 社会計画の歴史的な系譜	110
2節 市町村地域福祉計画の総合性とジレンマ	113
3節 基本構想における未来像と使命	116
10章 地域福祉計画を策定するⅡ — 下位レベルの計画	123
1節 課題の抽出と目標の確定	124
2節 課題計画から実施計画へのブレークダウン	130
補論Ⅱ：個人情報保護法	136
11章 地域福祉の組織化を展開するⅠ — 地域の組織化の機能	139
1節 地域福祉の組織化とその機能	140
2節 小地域福祉活動における基盤強化	145
3節 地域の組織化での新たな協働	148

12章 地域福祉の組織化を展開するⅡ — 福祉の組織化の機能	155
1節 福祉ネットワークの機能と失敗	156
2節 福祉ネットワークから福祉ネットワークキングへ	161
3節 ネットワーク再考—「安心」と「自立」の追求	166
13章 地域福祉の新たな事業を構想する	173
1節 地域福祉の〈理解〉〈合意〉〈共感〉	174
2節 地域福祉の事業構想のモデル	177
14章 計画の成果を評価し、実践の力量を高める — 評価の技法と展開	191
1節 さまざまな評価の方法と整理軸	192
2節 プログラム・セオリー評価とロジック・モデル	197
3節 エンパワーメント評価の定義と原則	201
15章 地域福祉のイノベーションを考える	
— ソーシャル・アクションと計画の未来形	209
1節 ローカル・ガバナンスが地域福祉に問うもの	210
2節 自律分散型シナリオ・プランニングの構想	217
補論Ⅲ：現象学的社会学	226
文献一覧	229
初出一覧	234
索引	235